

平成29年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

福岡県立門司学園高等学校長 印

学校運営計画(4月)		評価(3月)		
学校運営方針	併設型中高一貫教育校として、中高それぞれの教員が相互に連携し、その特性を最大限に生かす6年間を見通した教育課程を確立し、100年後に繋がる確固たる礎を築く。		B	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
<p>中高合同教科研修会等とおして、積極的に中高連携を推進し、6年間を見据えた教育活動展開のための環境づくりに努めている。また、「鍛ほめ福岡メソッド」を実践しながら、ICT機器等を効果的に活用したアクティブ・ラーニングに積極的に取り組み主体的に考え、行動できる生徒の育成を目指している。</p> <p>今年度は、上記取組の継続に加え、部活動を含む教育内容を充実させ、進路実現を可能にする確かな学力を身につけさせる。また、広報活動の強化を図り、積極的に情報を発信しながら、本校の更なる魅力化の推進を図る。</p>	規律ある授業環境の提供	整然と落ち着いた授業環境の維持により授業効果向上を図る。		
	学力向上策実践と授業改善	進路実現を支える確かな学力を身につけさせ、主体的・対話的で深い学びを実現するため、指導方法・授業評価方法の研究に努め、魅力ある授業を展開する。		
	心を耕す教育の充実	「鍛ほめ福岡メソッド」を実践して、自他を認め合い、相手の気持ちを思い遣ることができる人権感覚と自尊心・自己肯定感・人命尊重の精神を育む。		
	心と体の健康教育の推進	課題を抱える生徒の早期発見・早期対応による支援体制を確立し、授業や部活動をおとして心身ともに健康な生徒を育成する。		
	教育活動の一層の魅力化と広報活動の充実及び地域との連携	授業だけでなく学校行事などの内容を更に充実させ、学校の「魅力化」とそのアピールに努めるとともに、地域や同窓会とも連携して教育活動の一層の活性化を図る。		
	「思考力・判断力・表現力」の向上	知識・技能と思考力・判断力・表現力を身につけるとともに、英語力を向上させ、未知の状況にも対応できる課題解決力を育成する。		
	協力的で高い教育効果を発揮できる教員集団づくり	中高教職員が連携を深め、互いの深い信頼関係と温かい人間関係の中で、組織力を高め、意欲的・積極的・協力的に、建設的な意見交換・提案を行う。		
施設・設備等の教育環境整備	生徒が安全・安心な環境の中で、快適に充実した学校生活を送り、学習活動を行うことができるよう、施設・設備等の点検・維持・充実に努める。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
第1学年	集団行動においてマナー・モラルを身につけ、けじめある行動をさせる	社会で他の人と協調して生活していくための最低限のルールを学ばせる。	B	<p>学校活性化の指標となる生徒の自主的な挨拶が年度当初よりも出来なくなっているため、挨拶の大切さを再度教えるとともに、積極的な挨拶ができるように指導していきたい。学力においては上位層と下位層の学力差が開いてきている。上位層は更なる学力の向上に努めさせつつ、下位層は基本的な事柄を押さえながら、来年度以降の進路決定に結び付けていきたい。また、学力をつける基本は授業なので、落ち着いて授業開始が出来るように、今年度同様授業2分前着席を徹底したい。</p>
		集会などでは5分前行動、授業では2分前着席を徹底させる。	B	
		コミュニケーションの基本となる挨拶を徹底させる。	B	
	自己の進路についての将来の展望を持たせる	個人面談を行うことで、自己の進路を確立させる。	A	
		定期的な課題を与え、効果的な学習を行うことで進路実現に必要な学力を養わせる。	B	
	自分の進路目標に対して適確な情報を収集できる能力を身につけさせる。	B		
第2学年	責任と自覚を持たせる	先輩としての自覚を持ち、学校生活において後輩の模範となれるよう指導する。	B	<p>上級生であるという自覚と責任感がまだ不足しているため、来年度はそのような意識を持って、行動できるよう指導していく。進路意識がまだまだ低く、目標を掲げている生徒もそれに向けた努力が不足している生徒が多い。自らの進路目標を明確に持たせ、その目標に向けて粘り強く努力する姿勢を養っていく必要がある。</p> <p>身の回りの整理整頓ができていない生徒が多いので、改善させ、愛校心や奉仕の精神を高めていくとともに生徒の学力向上に努めていく。残り1年の学校生活を充実させ、悔いのないものとしていく。</p>
		生徒会活動、部活動、学校行事では、学校の核となれるよう指導する。	B	
		進路実現に向け、しっかりと授業、定期考査に取り組ませる。	B	
	自己管理・自主性の推進	手帳に予定やメモをとる習慣をつけ、自己管理能力や情報収集能力を養う。	A	
		清掃活動など今自分ができることを考え、行動できるような意識付けを行う。	B	
	積極的に自らの進路を考え、様々なことに取り組むように指導する。	A		
第3学年	基本的習慣・自己管理能力をもとに進路実現に向け全力で取り組む体制	手帳に予定やメモをとる習慣をつけ、自己管理能力を養う指導を行う。	C	<p>最終学年となり手帳を用いてさらに自己管理できるよう指導してきた。進路実現のために必要な準備の取り掛かりが遅い生徒もいたが、おおむねできていた。1年次からの活用の習慣づけが大切である。</p> <p>HRでの個人面談を通して、生徒の状況が把握できた。また、問題のある生徒の情報も共通理解を深め指導にあたることができた。体育大会では下級生の見本となり活躍した生徒もいた。また、帰属意識や愛校心の育成を図れた。</p>
		授業をしっかり受け、課題を主体的に取り組むことが受験の基本であることを意識づける。	B	
		生徒との個人面談を実施して、生徒の学習状況・進路希望の把握をおこなう。	A	
	門司学園の生徒として帰属意識をもち、最高学年として模範になる	学校行事に積極的に参加し、協力する態度を育てる。	A	
		体育大会では最高学年としてリーダーシップを発揮するよう指導していく。	B	
	目標「有言実行」を書くことにより自分自身の重点目標を確認し、生徒同士が刺激を受け向上心を持たせる。	A		

# 平成29年度 学校自己評価表

(計画段階・実施段階)

学校番号

7

福岡県立門司学園高等学校長 印

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教務課	授業規律の徹底と出席率の向上(学習環境の整備) 確かな学力の定着 アクティブ・ラーニング型授業の積極的導入の推進 ICTを活用した授業の推進	授業開始と終了時の号令等を徹底する。出席率98%・出席皆勤者60%以上を目標とする。	A	A B	全学年において授業開始時に黙想を導入することにより、号令の徹底を図ることができた。出席率・出席皆勤者についてもほぼ目標を達成することができた。家庭学習習慣や課題の提出状況には、学力の向上につながっているか等の課題が残っているものの、ほとんどの生徒は真面目に取り組んでいた。 本年度全教室にプロジェクトが設置されたことにより、積極的なICTを活用した授業展開など、授業の工夫改善が図られた。 評価の在り方等について活発な議論が交わることができた点は良かったが、課題が残っており、今後解決に向けて検討を重ねていく。
		家庭学習時間の確保、課題提出の徹底を図ることで学力向上を目指す。	B		
		アクティブ・ラーニング型授業の研修の充実を図り、最低1回以上の実践を目指す(研究授業等)。	B		
		ICT機器の積極的な使用を推進する。	A		
	観点別評価の充実 授業確保と時間割変更等の手順・確認の明確化	年間指導計画に評価規準を反映させ、評価規準に基づいた授業、評価を推進する。	B	B	
		行事の精選と実施時期の検討による授業確保を図る。時間割変更の確実な伝達を図る。	B		
企画課	第2学区の中学校・塾・地域に対する広報活動の推進	ホームページの内容を充実させ、更新を随時行い、情報を提供する。	A	B A	ホームページの更新頻度はあがったので、学校行事・部活動の情報をより充実させる。 体験入学の参加者を100名以上にするために、広報活動を充実させ、生徒参加型のプログラムを多く取り入れる。 塾訪問は、中高合同で多くの塾を訪問し本校のニーズや改善点などの情報を共有し、志願者数の増加につなげる。 PTA組織が一本化されて3年目を迎えるので、役員会・委員会のシステムを完成させる。
		2度の体験入学で参加者100名以上を目標とし、志願者増加につなげる。	B		
		中学校や塾での説明会をより多く開催できるように、訪問回数を増やす。	B		
	PTA活動の充実・併設中学校との連携	PTA活動のさらなる充実のため、役員・委員との連携を深める。	A		
		国際交流美術展など本校の教育活動を広く地域に紹介する。	B		
	一斉メール送信により、学校と保護者との連絡を密にする。	A			
生徒指導課	高校生としての基本的な生活習慣の確立および規範意識の醸成 生徒会を中心とした学校行事・校内活動の活性化	指導の一貫性を保ち、あらゆる機会を通して教職員と生徒間の信頼関係を深める。	B	B A	多くの生徒は基本的な生活習慣が確立できているが、一部に未熟な生徒が見られ、その指導の徹底が課題である。また、合理的な配慮が必要な生徒へのきめ細かな指導が求められる。校内での挨拶が不十分で、活発な挨拶が校内の活性化のために不可欠である。 今年度、中3で部活動を引退した生徒の高校部活動参加の枠を増やしたが、まだまだ中高一貫教育校としての強みを活かしていない。さらなる連携が必要である。 西鉄バスの交渉を通じての安定したバス運行が大きな課題である。
		教職員が挨拶を率先垂範し、生徒と共に校内活動の活性化を図っていく。	B		
		各委員会に具体的な活動計画を立てさせて、年間を通じて生徒会活動を充実させていく。	B		
		部活動の充実を図ると共に、中高一貫した活動の在り方を具現化していく。	A		
		門司学園生としての誇りと愛校心を養成し、部活動と勉学の両立に努めさせる。	B		
登下校時の安全確保および交通安全のマナーと意識の向上	定期的なバスの利用状況の確認・改善および交通機関のマナー遵守を指導していく。	A			
		A			
保健課	環境整備及び美化活動 生徒職員の健康管理	15分清掃の徹底、美化週間などを設定し、環境整備を図る。	B	B A	様々な工夫を行って、生徒の清掃に対する意識喚起を図ったが、不十分な点が見られた。清掃区域の周知徹底を図り、生徒に清掃にきちんと取り組ませる意識を持たせることが課題である。 生徒の健康管理は十分であったが、教職員の健康診断の事後措置が検討課題である。 昨今、合理的配慮が必要な生徒が増加しており、他学年や中学校との連携や他機関との協力が必要になっている。夏に一度教育相談委員会を実施できたが、もっと定期的に開催する必要がある。
		健康診断や行事前の健康相談を実施し、事前事後の健康管理の徹底を図る。	A		
	事故・災害の防止対策 教育相談活動の推進	生徒・職員の健康維持のため、環境改善策の調整を図る。	B		
		衛生委員会と保健委員会が連携し、施設・設備などの安全点検を実施する。	A		
	避難訓練や救命救急講習会を充実させ、防災教育の徹底を図る。	A			
	教育相談委員会の定期的な実施やスクールカウンセラーとの連携を図る。	B			
進路指導課	系統的な進路指導の実践 新テストの研究・対策	併設中学校の進路指導課と連携しながら、6ヵ年の進路指導計画を策定し、実践する。	B	A B	新テストや世の中の流れに沿った進路指導を充実させる。 効果的な進路ノートの作成を検討する。 英語力の底上げを図る。 小論文指導の方針を固める。 講習、セミナーの見直しを検討する。
		門司学ライブ(出前講義)を中学1年生から高校2年生を対象に行う。進路ノートの作成を検討する。	A		
		門司学プランの修正を検討する。特に、英語力、表現力を高めるプログラムを検討する。	A		
	難関大学合格者の育成	成績上位者への積極的な指導を推進する。	B		
		生徒が休日学校で勉強したり、進路指導室をより一層活用しやすくしたり、環境を整備する。	A		
	受験制度の理解等を深めることによって、生徒の受験への関心度を高め、効果的な勉強法を身につけさせる。	B			
研修課	職員研修の充実	教科別にアクティブ・ラーニングやICTを取り入れた研究授業を実施する。	A	A A	中高合同でICTを活用した研究授業を実施する。配慮を要する生徒についての情報交換は今後も継続する。また、生徒の学習意欲を喚起させるような研修(勉強)会や新しい大学入試制度への対応についての研修会を実施する。
		授業の充実・改善のために、生徒による授業アンケートを実施する。	B		
		中高の連携を密にするため、中高合同の研修会を実施する。	A		
		新しい大学入試制度への対応に関する研修会を実施する。	A		
	読書活動の活性化	学年毎に幅広く題材を選択して、進路実現のための「朝の読書」を継続する。	B		
中学生・高校生の両方が積極的に図書館を利用できるように環境を整える。		A			